

愛の種類として又副産物として柔和、忍耐、慈悲、赦し、寛大、及び平和を説き且つ模範を示し、始めて品性に欠くべからざる立場をこれ等の受動的徳義に與へたり。かく彼は私心と貪慾と憎惡との充てる舊き世界に愛の支配を來らすべく生き、且つ説教し、且つ死せり。

これは決して假裝したる愛、また職掌柄の愛にも非ざりしことは彼の全品性と生涯とによりて證明せらる。これ寧ろ本能的にてありき。彼は感覺鋭き性質を有せる人にして、冷然世と隔離したる無情の哲學者或ひは禁慾者にては非ざりき。他人が努力し奮闘するを見物せる人に非ざりき。彼は寧ろ身を挺して戰場裡に跳び入れり。彼の感情は強く且つ暖かにてありき。彼の心腸は濃かにてありき。彼はその友を愛したり。大膽にして堅固なりしかど反對憎惡を忍びたり、たゞ之をして己れの生活を狭くし又害するを許さざりしのみ。彼は困難と悲哀とを知れり。その感覺鋭き靈は、苦痛に堪へずして泣きしことありき。

彼は強き社交的性質を有したり。往來繁き市街と宴會と婚姻の筵と熱心なる群衆と人様々の道とを好み。固より祈りながら天父と偕に一夜を過さんとて遠き山に入るを好みたる事も屢々なりしも、翌日は新しき力を得て再び繁忙なる群衆の間に歸れり。天性同情篤かりければ人と俱にあり、愛する友の現在に依りて力を與へらるゝ必要を感じたり。己れに寄せられたる愛情を嬉しく思ふことに於て彼に優る者あらざりしが、さりとて自ら憐れむ弱々しさに落ちず、屹然として獨り自ら立つことを知れり。彼は當時の人が餘り爲さざりし事なる自然と小兒とを愛し、また之を愛すべく世界に教へたり。かく内より湧く愛はガリラヤの野人に優美なる品格と禮節とを與へたり。彼は萬世に通じて第一等の基督教紳士なりき。彼は萬人を愛せしが、分けても助けなき人、婦人、貧民、世に棄てられたる人、墮落せる人に對して類ひ稀れなる義侠心に充たされたりき。友なき人は今や遂に偉大にして且つ濃かなる友人を見出せり。

この耶穌は肉身となれる愛にてありき。彼は絶對的に無慾なりき。彼は満たすべき功名心を有せず、斷えて富を顧みず。たゞ一つの偉大なる事業の外何等の快樂を求めず。全幅の精神を擧げて此の事業に捧げ、最高善たる人の救ひを求めたり。彼は己れの爲めに何事も欲せざりき。彼が願ひしは與ふること、助くること、同情すること、癒すこと、自己の安樂を忘るゝこと、他の爲めに勞して己れを消費すること、遂に人を生かさんが爲めに自ら死ぬることにてありき。彼は豊かにこれを與へて足るほどの靈的祝福の多くを有するを感ぜり。彼は人間を愛する者として第一位に位し、其の弟子と雖も此の點に於て彼に匹敵する者あらざりき。彼の品性に於て矛盾と見ゆるものは此の點に於て能く解釋せらる。耶穌は偉大にてありき。而してあらゆる眞正の偉人が然る如く己れの力を意識したり。彼はメシア、主、また王にてありき。之を主張するに不確實なる言葉を用ゐざりき。されども彼は權威を掴み取らざりき（ピリピ書二〇六至八）。彼は寧ろ謙遜を稱讚

し、我は心柔和にして謙る者なりと云へり。如何にして此の二つのものが一個の精神に共存し得るか。總てこれを解釋するものは彼の愛なり。彼は己れのメシアたることを以て、自ら之を得、自ら之を誇るべき位と見ず、之を果す爲めに神より與へられたる任命、盡さるべき愛の務なりとせり。既に言ひし如く彼に取りてメシアは救主を意味す。如何なる重大なる事業にてもまた賤き事業にても樂んで之を爲さざりしものあらざりき。十字架に死に給ふ前夜、弟子の足を洗ひしが彼に取りては此の二つの行爲の間に高下の區別はあらざりき。彼の偉大は人に事へ得る力の偉大なるなり。彼の第一に位せる所以は自己犠牲にあり。彼は人の爲めに勞して結果を擧ぐる爲めに絶對的無比なる實力を意識したり。人をして彼を主と呼ばしむる時、彼は自己を否定して人に事ふるより生ずる最高のものを敬へと求むるなり。彼は總て人に優りて愛の力に於て強ければこそ王者にてあるなれ。

●智慧 ● 基督者は今日耶穌の聰明と見識に就て考ふること少きに過ぐ。されど我

等は彼に於て最も深き智慧と創始力とを見出す。然も自然の原理より言へば有るべしと期待せざる處にこれを見出すなり。こは學び得たるに非ざる智慧、實際的人物の智慧、靈的人物の智慧にして學堂の智慧に非ず。されどその智慧は學者若しは哲學者の示したるものによして偉大なる智慧なり。これ書籍より來らず、旅行より來らず、人と人事の廣き經驗とより來らず、内より生れたりと見ゆ。その時代と國土とは皆此の如き智慧の出現に不利なりき。然るにユダヤ人の偏狹の間より廣さは生じ、律法的形式主義の間より識見は生じ、常識を通り過ぎし教の系統より實際的のものは生れたり、確かに暗黒に居りし民は大なる光を見しなり（マタイ四〇十六）。

耶穌に於ては合理性と健全と自制力とあり。これあるが爲めに耶穌は直ちに偉人の列に立ち、これあるが爲めに彼を夢想家とする非難は何等の手傷を負はす能はず。彼は濶大なる見解を持し、時代の渦中に捲き込まるゝことを厭ひたりき。

彼は常に帆を中流に揚げたり。彼は泰然として同時代の人の偏頗と偏見と極端とを超越せり。彼はあらゆる時代、あらゆる民族の、より善き感覺に訴へたり。普遍的永久的なるもの彼の内に強かりき。彼が内なる人と精神と祈禱と信仰の生活とに重きを置きたることを思へば此以上の事は更に注意すべきものとならん。内的なる性格の誘惑は、屢々適度を失して狂的となるにあり。然るに耶穌は最も出世間的なる靈を以て最も明らかに實生活の性質と趨勢とを見たり。耶穌は實に理想家なりき、されども空想に蔽はれざりき。彼は靈に導びかれたり、されど實際的の範圍を離れざりき。彼は進歩の隊列に於て先頭に進めり。されども彼は偶像破壊者にては非ざりき。彼は理想の要求をなせり、されど直しく解すれば彼の弟子も亦遂に人間たることを忘れざりき。彼の教には殆んど世俗の智慧と誤られ得るほど卑近なる常識の現はるゝことも珍しからず。言葉にも行にも現はれたる此の驚くべき平均は研究打算の結果にあらず、彼に取りては自然にして天真な

るを見る。彼は人をして一目の下に全地位を觀望し、周圍の事物をも亦事物の配合をも見せしむる最高等の天才を有したり。

平均を得たる人はしばし冷たく、批評的にして決然たる行動を取る力を缺く。然るに耶穌は平均に兼ねるに熱心を以てし、智慧に兼ねるに進取力を以てし、健全に兼ねるに堂々として人を指揮する力を以てす。彼は其の合理的なることは何人も否定する能はざる言葉を吐き、しかも何人も達する能はざる標準を置けり。彼は廣さが爲めにその刃の銳利を減ぜず、彼の心濶大なるが爲めに猛然たる一撃を與ふる力を痲痺せしめず、正しく立場を見得る結果として踈つことを知るとともに一朝働くべき時來る時、彼以上に斷然として行ひ得る人は未だ曾てこれあらざりき。

先例が萬能なりとせられたる時代に於て彼は絶對的獨立なるべき智慧と確乎たる心とを有し、如何なる黨派とも同盟せず、又同盟を求めず、人に従ふ爲めに己れ

の眞理を枉げず、一部分の成功に満足せず、一瞬間と雖も彼の大目的より離れざりき。或人は彼を稱して革命家といひ、或人は熱心に之を否定す。此の如き議論の生ずる理由は彼が本能的に有したる平衡に存す。彼は舊き物に於て善を見出し、之を愛し、其の上に新しきものを建てたり。彼は舊き物と新しき物とを單に舊きと新しきとによりて反對の地に置かざりき。彼は寧ろ舊きもの、新しくなるを欲したり。彼は大變革あるべきを認め、律法主義の如き或る贅物に對しては公然戰を挑みたれども、舊約聖書の宗教の眞髓をばその歸着する處に到らしめ、之を深くし、之を個人化し、之を靈化し、之に熱を與へ、之を積極的普遍的になさんと力めたり。彼は己れの精神が舊約聖書の精神に遠きことを許さざりき。彼が殺されしも自からユダヤ人のメシアたりと稱せしに因れり。『彼は改革者中最も大膽なる者にして、又保守家の最も高尚なる型かたにてありき』。

人は訓誡と外面の義務の外何事をも思はず、堪へ難きほど之を細論したる時代

に於て、耶穌は終始一貫内的の人及び生活行爲の大原理と交渉せり。彼はパレス
テナに於て幾多の有益なる個人的改革を發起し得たるべきも、新しき人を造り、
かくて新しき世界を造る大事業より其の心を他に轉ずるを否みたり。この根本的
の事業こそ彼の一大改革にてありける。彼は政治の細目に囚はれず、其の原理を
生活の末節に適用する事に拘泥せざりき。彼はその教訓に留むるに常に新しき境
遇に適用し得る餘地を以てし、間もなく過ぎ去るべき其の時代に拘束せられざり
き。彼がかくなせしは未來を見る眼識ありし爲めなりと云はんよりも、寧ろ人の
靈的獨立を尊重し、内的原理を日常生活の細目に應用する間に得らるべき道德的
精神的の自己教育の價値を認めたればなり。この一事耶穌を宗教道德の天地に於
て最高の指導者たらしむる徹底力と聰明と廣き心とを示す。その結果として爾來
あらゆる時代の人は其の最も深き問題を携へて耶穌に來りその受くる答へは深く
且つ適切にして、専ら自己にのみ語りたるかと思ふほどなり。

蓋し耶穌の有せし知的及び道德的の均衡を最も良く現はす者は、眞理の領分に
於て物の比例を觀ずる精微なる感覺なり、第一のものを第一位に置き道德的混亂
の裡より秩序を見出し暗きに代ふるに光を以てせる天才なり。彼が宗教と道德と
を並び立たしめて然も宗教を第一位に置きたること、個人と社會との間の平均を
得せしめ、能動的の徳と受動的の徳との平均を得せしめたること、此の世界に於て
自己脱却と實際的生活とを結び合したること、此等のものは常に最高智慧の證據
たるに止まらず、世界が一個の教師の唇より受けしとなき最も豊富なる祝福なり。
耶穌の智慧は洞察力として見らるゝを得べし。彼は全く明瞭にあらゆる地位を
看破し、殊に人の心靈を看破し得たるが如し。彼は人の心を知る人としてシエク
スピアよりも更に偉大なりき。一見誤りなく、隠れたる動機の源を分解し、その
分解したる結果をば單純なる言語を以て報告するが故に、あらゆる時代の人、そ
の中に己れの道德的寫眞を見るなり。實にヨハネの言へる如く彼は人の裏に在る

ものを知れり。人間靈魂の限りなき價值と尊嚴とを見出し、普通の人即ち個人を見出したる最初の發見者にてありき。彼は他の改革者の未だ曾て始めざりし處即ち平民より始めたり。彼は自ら平民にてありき。彼は平民を知り、之に同情し、之を尊重せり。彼は平民を新運動の首領となせり。彼は群衆を愛したり。彼の用ひたる一つの大きな方法は出來得る限り多くの人々に接觸して己れを彼等に注ぎ出すことなりき。人は彼の父即ち彼等の父と交ることによりて如何なる者にまで成り得るかといふことに就きて彼は最大の信仰を有せり。故に彼は敢て靈的王國を以て彼等を引着し、之をなすに靈的手段を用ひたり。彼は實在と最深の實在とに訴ふるに萬事を託したり。これ實に破天荒の試みにして其の成功によりて僅かにその智慧を證明し得たり。然れどもそれは成功せり。されど一面より言へば今日に至つて世界は僅かに目醒めてその十分なる意味を悟り、耶穌の實驗に十分の効力を與へんとし始めつゝあり。我等は今に於て初めて人は無限の價值あるも

のにして、成功すべき運動は人民の間より起らざる可らず、靈的手段は唯一の効力ある手段にして、若し世界が救はるべくば耶穌の開きし道に依つて救はれざる可らざることに一致し來れり。耶穌が有らゆる問題に於て中心點を看破したること、有らゆる盤根錯節を斷ち得しこと、疑問に答ふるに當り陳腐なる論點を後に遺し、人を一段高き世界の天光に入らしむる道を取りしこと、歴史的位地の迷宮の間を縫ひ行く歩みの確實なることに於て當時の人を驚かせしこと、何れも上節に擧げたること、軌を一にせり。

耶穌の智慧は全く實際的なりき。何等抽象的思辨的論理的なるものあらざりき。單純と直接これ彼の方法なりき。彼は高き論理のピラミドを建てず、或る系統を立つることを思はざりき。此の如き事は全く彼の心と縁なきものなりき。寧ろ彼は祝福の實驗より出でたる事を人の心に語りたり。思うて此處に到りしにあらざるも、こは最高の藝術にてありき。世界の最大教師のうち平民之を理解し且つ之

を楽しみ得るやうに語りたるは耶穌あるのみ。この事にかけてはパウロすらとも彼に匹敵すべくもあらず、彼は知りしところを人に語りし故その語りし事は驚くべき自明の性質を有したり。人に與へたる現實の感覺は二千年後の今日尙ほ彼の言葉に附着して不朽の新鮮と力とを附與す。彼が世界に満たしめたる神に關する新しく且つ直接なる感覺は其後永久に失はるゝとあらず。『彼はその衣に、より高き別世界の薫りを帯び來りて世界の空にそれを浮動せしめたり』。最も單純なる、最も直接なる道に於て如何に生くべきかを人に語りたり。爾來歴史に現はれたる最も愛すべき又最も高尚なる人物は、最も近く彼が在りし所に接近し、彼が言ひし所を實行する人々にてありき。彼は新しき型の人にして新しき型の人間を造りたり。手近く有りながら人の多く之を看過したるべき最も單純なることを爲すところに耶穌の明敏は存せり。彼は新しき眞理を有したり。人もし彼の地位に立たば、この眞理を現はす爲めに新しき用語を創造し、過去と關係なく現代に觸

れざる一種鈍重無意味なる機關を作り出せしならん。されどかゝる方法を用ひることは耶穌の曾て思ひ到らざる所なり。彼は神の國、メシア、父（神なる父）、及び救ひの如く、常に宗教的概念に通用せるものを見出せり。彼は是等を捉へ之を淨め之を高め、その誤りと制限とを取り去り、新しく更に高尚なる使命を語らしめたり。これ實に賢き方法にして、實際的人物の本能を示せり。前章にも示せる如くこの過程の歴史の中には耶穌の天才と廣さと忍耐と新しき觀念を注入する力とを示して讚嘆禁じ難からしむ。

耶穌は破壊すべき事物を有したれども、新思想を持てる多くの人が爲す如く破壊を喜ばざりき。彼の教訓と事業とは寧ろ判然として積極的建設的なりき。彼は偉大なる建設者の一人なりき。彼の据えし基礎はかくも廣く且つ深かりければ教會は基礎の堅固と能力とに就て憂ふるを要せざりき。彼はユダヤ教の城壁を弱めたるに相違なけれども一朝ユダヤ國が倒壊するや耶穌の建てし建築は其の美、其の

力、燦然として輝けり。されど最も良く彼の實際的智慧を示す者は權威と傳説とに訴ふるを敢てせず、舊約聖書にさへも最後の重みを置かざりしことにあり。彼は直接良心と道理と意志とに語るを可しとせり。彼はあらゆる高尚なる情緒を喚び起して己が味方に立たしめたり。眞理と常識と眞實とに訴へたる此の方法の新しきことは人に感ぜられたり。これ耶穌の道なりき。そは誠實なりき、有効なりき、終極的なりき。これにして成功せずば何者か成功し得べき。

終りに言はん、我等は彼の智慧の性質或ひは實體或ひは方法の執れを見るも世界は今も尙ほこの大教師の足下に坐しつゝありと。

力。新しく且つ親しく福音書を研究して後我等は言はざるべからず、耶穌の面影を留むる主なる印象は終ひに方の印象なり。彼の人格の偉大と勢力の印象なり。『神の力ある御子、不死の愛』と歌へるテニソンの有名なる詩句も、彼は權威を有てる者の如く教へたりとマコが初めて耶穌に下せる評言も、同一の感を言ひ現

せり。耶穌が恒に當時の人に與へたる印象は力にてありき。バプテスマのヨハネ、彼の弟子、群衆、敵、衆議所、ピラト、皆同じ印象を受けたり。耶穌に對する態度の如何を問はず彼の品性の力を深く意識せざりし人あらざりき。ガリラヤの百夫長は生れながら人を服すべき將軍の如く彼を見たり。ガダラ人は惡鬼の一大隊を逐ひ出し得る人の前に立てるを感じたり。彼は底の底まで全國を動搖せしめ祭司長等も彼は己れ等を覆へす恐れありと告白せしほどなりき。

耶穌は傳道の初めより十分に己れの力を意識せり。彼はその大事業を成して餘りある實力己れに存するを知れり。誘惑の物語に於ける惡魔の誘ふ言葉は執れも彼の力を豫想す、最後のものに至つては全世界を征服する力彼にあることをさへ含めり。耶穌は自ら此等のことを爲し得ることを否定せざれども、かくては力の濫用となることを知り、之をかく用ひることを拒絶したり。耶穌に取つて個人的なる道德問題は主として自制の問題にてありき。その力の少きに過ぐるよりは多

きに過ぐる爲なりき。彼が弟子に與へたる名が力と進撃的にてあるを見よ、彼はシモンを巖と名け、ヤコブとヨハネとを雷の子と名づけたり。彼は人を強くなせり。彼は附與すべき力を有したり。

耶穌は完全なる肉體の健康を有したるが如し。彼は長き間、引き續きて感情と同情とを費し、神來の力を消費すべき種類の勤勞に堪へたり。彼は病みしとなく又疲れしこと稀れなりき。彼の要したるは休息にてありき。彼は終りまで戦ひを繼續して其の氣力衰ふる事なかりき。彼の身體は精微なる神経系機關と立派なる體格とを兼ねたる最も高等なる型に屬せり。彼は完全に正則なる人、殆ど人を驚すほど自然なる人にてありき。彼は多血的にして猛き氣質を有し、熱心、勇猛にして希望に充ちたり。喜びの深き泉は彼の衷心より湧けり。彼はユーモアの感を有したり。彼は小兒を愛し、その遊戯を見ることを好めり。彼は偽善と惡とに對して嚴しく怒るとを得、その猛烈なるや敵を辟易せしむるに足れり。されど總てこ

れらのものは強き人格の駕御を受けたり。怒り易きことは聖者及び英雄にあり勝ちの不徳にして小き刺戟しばし調子高き靈的人物の弱點を曝露することある習ひなるが耶穌は優に之に勝ち得たるが如し。彼は今日の神經衰弱の微かなる跡をも止ざりき。特別に弟子に感動を與へたるは此の自制の力にあり。マタイは彼の舉動の靜かなること、その餘裕ある忍耐を語り（マタイ十二〇十九至二十）、パウロは基督の柔和、温厚、マシウ・アルノルドの『甘美なる合理性』（コリント後書十〇一）と云ふ所のものを語り、ペテロは苦惱の真中に於ける沈着、信仰、及び辱めを受けて沈黙せること（ペテロ前書二〇二十三）を語りたり。耶穌は大にして氣力あり、温かにして進撃的の性質を有すれども、愛と自重とに依りて立てられたる制限以外に逸せざりき。

彼は活力を以て溢れたり。彼は生命と力との湧き立つ泉にてありき。病める者は彼の手を觸るゝとに依り、彼の命令する一言によりてさへ癒されたり。罪ある

人と失望せる人とは新しき純潔と希望とを以て彼の前より去れり。ヨハネが言へる如く、彼に生命ありき。彼は生命を有せしめ且つ豊かに之を有せしめんが爲めに來れり。其の靈的所有の豊富なるや殆んど贅澤に與へしほどなりき。すべて力ある人に對して然る如く、群衆は彼の周圍に集まり、彼に依り縋り、魅せられし如く其の言葉を聞き、其の驚くべき氣力に與らんと求めたり。

耶穌は限りなく強大なる資力を有したる人として我等を打つ。彼は常に何をなすべきかを知り（ヨハネ六〇六）、未だ曾て惑ひしことありと見えず。彼は有らゆる舞臺を支配したり。ユダヤ國の最も智略に長けたる先輩が彼を陥れんが爲め凝らしたる巧妙なる策略も彼に施すに及んで、昔敵がサムソンを縛りたる細枝の如く、効力なかりき。彼の心には單純より出でたる智慧、愛より出でたる手段を藏せり、これ世俗の智者の夢にだに見る能はざる所なり。怒りたる敵は眼に殺氣を帯びて彼を取り圍めども、その容貌に一種の權威ありて彼の出でんとする所自ら

道を開きて彼に手を觸るゝ能はざりき。彼の一生の行路は變遷多く、自ら亦鋭く變遷を感じたるべきも、彼はこれよりも一段高き世界の見地より有らゆる境遇を支配し、有らゆる問題を解決せり。身に一兵を帯びずして集議所とピラトの前とに囚人として立てる時さへも彼は依然沈着にして惑はざる中心人物にてありき。我等は此の無言にして惱める人却つて主たることを感ず。彼等は彼を審判せる如く見ゆれど、その實彼こそ審判者の地位に立ちしなれ。彼に宣告を下す彼等却つて宣告を受け、有らゆる時代は此の宣告に承認を與ふ。

この力ある人が其の確實、堅固、泰然たる勇氣に加ふるに王者の如く堂々たる個人的威嚴の驚くべきものもあるも不思議に非ず。そのうち何等の誇りはあらざりき。眞實彼に屬せざりし地位を僭せる嫌ひは露ほどもあらざりき。彼は如何なる賤しき務も之を辭せざりき。尊大に構ふる風少しもこれなく、又孤立峻嚴自ら持する風はなかりしかど、完全なる自重ありき。これ即ち眞正の偉大、單純なる正

直、最高目的の嚴肅より生ずる自然の威嚴にてありき。如何なる敵も彼に戯れんとする者なかりしならん。たゞ最後の審判の時、辨へなき下郎が彼を打ち彼を嘲弄したることあることあるのみ。彼の弟子のうち一人も彼に遠慮なき振舞をする者なかりしことは我等が本能的に感じ得る所なり。粗忽なるペテロが十字架にかゝるを不可なりとして諫めんとせし時の舉動のみはこれに近かりしが、その結果如何なりしか我等の總て知る所なり。一言に云へば彼は主にてありき。こは固より彼のメシアたることに因り、また殊に神の國の建設者なる事業に含まれたり。彼は最初より主にてありき。バプテスマのヨハネは本能的に耶穌が己れの上に立てるを感知し、唯彼好みしが故にバプテスマを授けたり。神殿に於て商賣し居たりし群衆も彼の權威を認め、手を下さずして遁れ去れり。ゼベダイの子等は網を捨て、彼に従ひぬ。彼は常に主にてありき。弟子の中苟且かうそくにも之を疑ひし人なく、耶穌も己れの特權を脱せしことあらざりき。彼は自然に且つ容易に其の位地を取

り且つ之を維持したり。彼は己れの計畫方法に關して弟子に相談せしことなく、未だ曾て何人の助言をも求めしことなかりき。彼は自ら責任を帯びてあらゆる新しき運動を開始したりき。彼はたゞ指導し、弟子は其の後に従へり。彼は命令し、彼等は服従せり。彼は己れを主と呼び、王と呼び、彼等は此の如き人として彼を受けたり。かく彼は指導者たり、獨裁的指導者たりしも、かくも無私、公平にして、同情厚く、忍耐深く、鼓吹力に富めることに於て彼に匹敵する者なかりき。彼は愛の帶を以て人と人とを結び合せり。失望、誤解、猛烈なる反對、最も恐ろしき危険あるに係らず彼等の中に尊敬と崇拜と死せざる愛と忠義心とを喚び起し、生命を犠牲にして尙ほ足れりとせざりき。彼死して茲に二千年後の今日帝國の君主と雖も耶穌が有するほど、如何なる犠牲をも甘ずる熱誠なる臣下の多數を召集し得る人あらざるべし。彼は最高なる鼓吹者たりし故、最大の首領にてありき。彼が最高鼓吹者たりし所以は最も偉大なる彼が彼等の爲めに惜みなく自己を與

へ、十字架の死をさへ受けしにあり。この一事昨日も今日も何時までも彼を正義の大軍の絶倫なる主將たらしむ。

我等の示したる如く此の人格の力は代々に亘り、あらゆる海と河とを渡りて進めり。人類に於てかゝる運動の起る原始の衝動を作り不斷の勢力を供給し得る人に住める力は如何に偉大なるべき。

對偶 耶穌に於て反對せる者の並び存するよりも感動を興ふる者あらず。宛がら虹の如き性質を有し、視角を異にするに従ひ、光景常に變ずれども、常に美麗にして且つ調和に富めり。常には相反せる此等の性質の多くに就ては既に論じたれども尙ほ我等は多少の繰返しを厭はずして最も顯著なるものを列記せんとす、これ讀者の中耶穌の人格の此の注意すべき性質を認識し得ざる者あるを恐るればなり。彼は純然たるユダヤ人にてありき。ユダヤ的感化の外何物にも接せざりき。されど彼は自然を愛し人生を楽しむ點に於て、一個のギリシヤ人にてありき。又そ

の勤勞の奮闘的なることに於て、其の心の實際的なる點は、アメリカ人にてありき。彼は時代の子にてありしも、有らゆる時代の首領となれり。

彼には能動的の徳と受動的の徳との驚くべき結合ありき。愛の人にして戦を避くるを得ず、また之を避くるを欲せず、平和の君にてありながら多くの敵に憎まれて死せり。實に彼は男性女性の最も貴き性格を一身に兼ねたりと見ゆ。彼は強けれども粗暴の嫌なく温和なれども柔弱の痕かりき。これを説明し得る者はたゞ愛あるのみ。

我等は瞑想的と活動的との非常なる一致を此の人に見る。彼は群衆と往來繁き市街とを愛したれども亦しばしば竊に山に入りて、己れと俱にあり、神と俱にありたり。彼は人に知られんことを求め、人の注意を促し、彼の使命を聽かしめんとしたれども、パウロとは異なりて不思議にも其の内的經驗を包みて語らず、終にその秘密を洩らすことなくして死せるを感ぜしむ。彼は充實せる生命、豊富な

る力を意識したれども、彼が祈りの多かりし事は、神のみたゞ供給し得る缺乏の
 感覺ありしを示す。舞臺の背後に秘めたる生命あり。世の知れる耶穌を解決する
 には此の生命に照す必要あり。

彼は上品にして威嚴を保ちたれども決して冷からず、又尊大ならざりき。熱心
 にして同情深かりしも猶ほ常に賢かりき。深く靈的なれども狂熱的の人に非ず、
 罪を憎むことに於ては熱烈なれども禁慾者にはあらざりき。

彼は計畫を立て未來を望みたれども、其の計畫の輪廓以内に於ては彼は徹頭徹
 尾臨機應變の人なりき。彼は最も廣き觀念を有すると共に、至り盡せる注意を細
 目に用ゐたりき。彼が偶然道を問ふ人と語るや、茲に畢生の事業あるが如し。彼
 の如く多忙なる人はあらざりしも、彼は常に時間を有したり。

彼の如く其の事業に身を投じて惜まざる人あらざりしも、將來に對する憂慮を
 超脱せることを示せり。彼は如何に竣つべきかを知りたれども又毫も躊躇せざり

き。誤りなき確實を以て己が機會を知るが故に、時の來るや驚くべき英斷を以て
 行へり。彼は教師、説教者、詩人にてありしが、これと同時に最も實際的なる建
 國者にてありき。

彼は王者の權威と最も純粹なる謙遜とを兼ね、神より任命せられし者の有する
 頑強なる自立心と天父に對する默従とを兼ねたり。

彼の心は人生のあらゆる無邪氣なる快樂に反應せり。其の喜びは實にして且つ
 深かりき。されど彼は悲みの人、又悲しむ者の親友にてありき。彼は自己實現と
 自己否定との間に反對あるを知らざりき。彼は自己を與へて自己を發見せり。彼
 は他の人の爲めに己れを捧ぐるに従ひて、その靈に於て力を増し加へたり。

彼は天成の保守家にてありながら、又眞正の進歩主義の人なりき。多くの事に
 於ては世界は彼の後に従ひ得ざるほどの急進家にてありき。彼は最も鮮明なる個
 人主義者にてありしが、最高理想として神の國てふ社會的觀念を宣べ傳へたり。

彼は倫理と宗教とを殆ど一様に重じたり。彼は一層深く一層厳しき道德と共に新しく且つ自由なる宗教を紹介せり。彼は同一の強硬を以て正義と愛とを宣べたり。罪人に對する彼の愛は純粹にして驚くべきものありしも、彼等に就て少しも幻影を描かず、彼等の罪に對して言譯をなさざりき。彼は教育を受けざりしと雖も、世界は彼より教育を受けんとて行けり。最高の學問に於てまた然り。彼は一平民なりしかども言ひ難き偉大なる人として世界に印象したり。『彼は考へらるべき總ての善の型を一身に包有して、之を完成せる如く見ゆ。』『彼に存する白色の光は我等の小さき三稜鏡のあらゆる分裂せる色を集合す。』『總て是等の反對はたゞ彼の靈魂の金剛石より出づる光線たるに過ぎず。』而して金剛石の中心は彼に宿れる神の靈なり。これ等の様々にして殆んど反對せる性質あるが爲めに耶穌を正しく人類の道德的政治的首領たるに適せしむ。これあるが爲めに彼は一種普遍的の人となる。男女の兩性、一生の各年齢、各時代、各國民、各階級それ／＼彼に於て何

となく親しみを感じ、且つ懇ろなるもの、嘆美すべく愛すべき或物を見出す。最も反對せる宗派は一樣の熱心を以て彼を己がものとなし、最も多くの反感を抱ける男女共に彼の人格に盡す忠義に於て相合す。我等の時代の新しき世界的生命、新しき要求を持ちて一つとなれる人類は、その要求する品性の多様と不變とを他の人に見るを得ず、唯主にして救主なる耶穌に於てのみ之を見る。多方面なる人格に於て道德上の平均を維持するは最も困難なる倫理的成績なり。然るに耶穌は全く安らかに此の成績に到達せりと見ゆ。相反せる是等の性格を具へながら彼は混雜せる性格とは見え、初め接せる時も、最後に分析する時も、内の生活の單純と調和と統一とに加へて、作爲せざる自制と自然なる偉大とを以て我等を感ぜしむ。

●善良 人の本能的に好まざるは所謂善なるものなり。古來の諷刺家は之に向ひて箭を放ちたり。雄健にして實際的なる人ほど之を輕蔑す。然れども耶穌の善の前に出づれば嘲弄も沈黙す。彼の絶倫なる品性は嫉妬と嫌惡とを起さしめず、却て

人を引着する力あり。其の人物大になるに随ひ必ず耶穌を稱讃す。耶穌に反對するは我等自身を審判する所以なるを感ず。たしかに耶穌は敵を有したり、されど彼等が耶穌を憎みし所以は彼等の罪惡に反對し財政と人望とを害したればなり。彼等が耶穌に反對せしは彼が善に過ぎたるが爲にあらざ、自ら敬虔の模範、國家の干城と思ひ、彼を非宗教及び亂逆の同盟と見做したればなり。或人は今日も同一の道理にて耶穌に對して同一態度を示すならん。彼は彼等の邪魔物となればなり。されども彼等は其の行により其の思想の小さく心術の下賤なるを示すに過ぎず。世界の心は一致して耶穌の正しさを認めたり。

人は耶穌の全く正直なる事を好む。彼は幼兒の如く單純なりき。彼は眞理に根據を据え、隅々までも健全にてありき。彼は絶對的に醇粹にてありき。彼は正義と眞實とを好む情熱を有し、方便や偽善に對して身を削る如き憎惡を有し、惡を惡む嚴正なる心は罪人を愛する愛の爲に曇らざりき。彼の品性は不思議にも明整純

粹の感を與ふ。一種の私慾彼方に引き愛或は義務此方に引き、低き動機と高き動機と相混ぜる痕なし。此の人には一點偽りの調子あらず、病的なる所、虛榮、偽りの謙遜、宗教的の過度、狂熱、禁慾なく、自らあるよりも別なるものと見せんとする心あることなし。義務の存する所、衝突を避けんが爲に妥協することを夢みざりき。彼は罪を犯すよりは寧ろ死ぬるを可しとせり。貢税を納むる可否につき問を受けし時は彼の主義が火の試験を受けし時にして、彼は其の結果をば十分に知了しながらも言を曖昧にすることを好まず、己が生命をも擲つ結果となれり。彼は之が爲によし十字架を受くるとも一粒と雖も眞理を曇らすこと能はざりき。彼の生活の天真にして自然なること、彼の行徑の直線なること、討論に於て公平且つ淡泊なりしと、常に眞實に訴ふる其の秘密は完全なる誠實に存す。この誠實は彼に人を引く魅力を與へ、弟子は之に感じて彼は恩寵と眞理に充てりと云へり。彼の善は正直の岩層に基きしのみならず又全く私心なきものなりき。畢生の唯

一の目的は愛を以て天父の聖意に服従する其の祝福の裡に人を導くことなりき。愛の目的主となりて其の一生を支配し、個人的の利益、或は快樂、或は人の稱讃を求むる思想之と競ふ能はざりき。他の事に捲き込まれんとする誘惑ありしに係らず、變化多き一生のさまざまの變遷と失望とありしに係らず、幾何もなく其の路の盡くる處これ十字架なることを發見せしに係らず、此の高尙なる目的を執り守りて失ふことなかりき。奮つて此の大なる計畫に熱中せしことが彼をして己の爲に謀らんとする一切の誘惑に耳を塞がしめ、勇氣と眞實とを嘆美する總ての人の愛を彼に與へしめたり。

耶穌の善は人を引く、何となれば彼は自己に對して正直に、其の説教せし所は之を實行し、他人に求めたる高尚なる理想と嚴格なる要求を先づ自己に適用し、聽く者の何人に對つてよりも先づ自己に求むる所厳しかりければなり。之と自然相聯關せしは罪人を取り扱ふの公平なりしことなり。彼等の見地に立ちて事物を

觀ずるを厭はざりしことなり。如何に狭く且つ弱くとも兎に角に藻掻き上らんとする第一努力の親切なる認識なり。善ならんとするあらゆる向上心を助けんとて喜んで差し出したる助の手なり。マタイの記する所によれば耶穌は傷める蘆の爲にも最善の力を盡し無用として之を棄てず、煙れる蠟燭の心に残れる僅ばかりの熱をも保有して再び之を吹き起して火を燃やさしめんとす。救主の忍耐と親切是の如し。されば彼の善には何等排他的の所、狹隘なる所なかりき。日光の如く雨の如く總ての人の爲なりき。廣大なる彼の心は最も弱きもの最も強き者を併せ容れて差別を立つることなかりき。さりとして彼は東の間も似て非なる慈惠の爲め、人類の爲め建つべく來たる正義の高標準を下すことなかりき。

斯の如き事の有り得し所以は耶穌自ら道德上の苦戰に従事し居たればなり。彼は我等と同じく誘惑せられたり。彼は決して罪を犯さず、之が爲に其の善は年毎に彌や深く且つ豊富になり行きて最も美なる成熟に達せり。故に此は眞實の到達眞

實の勝利にてありき。若し然らざりしならば彼の善は我等と交渉なき別世界に屬し、冷き大理石の如く、缺點はなきも、其の完全は我等を失望に冷却し了らしむるに過ぎざらん。然るに我等が立てると同じ戰場に立て我等の敵と同じ敵と戦ひ我等の用ひざるべからざる武器を以て最後の勝を得たればこそ、我等を導く先驅者となり、日々の苦戦に於て我等を鼓舞する勝利者となり、世界の光と希望となり得るなれ。彼は彼に信任し彼に従ふ人をしてよし彼よりは低き水平より出立するにせよ彼が勝ちし如く勝ち得べきことを信せしむ。

偉大 耶穌の偉大を記す爲に一項を與ふることさへ殆んど不必要と見ゆ。今まで記されし事はすべて相合し偉大の印象を有り餘るほど與ふればなり。或る偉人は或る一の性質或は材能に於て偉大なれども、最も偉大なる人は一つのみならぬ道に於て大なるなり。耶穌亦然り。彼は最大なる品性、最大なる教師、正義の最大なる組織者、人類の最大靈的鼓吹者及び首領として人の間に立てり。同胞中の最も

高貴なる人物の間に位せるはヒマラヤ山脈のうちにエヴェレスト山が最も高く雙ひなく立てるが如し。

彼の誕生と境遇の不利なると、彼の感化の廣大にして悠久なる、彼の靈的經驗の無比なる、宗教及び道德の範圍内に於ける彼の主宰力と創始力、純潔と愛とに人類を導く者として占むる卓越、彼の思想の豊富なる、個人及び人類の高擧及び不休の進歩あり得ん爲に彼の人格より出づる鼓吹力、彼が神の國を建て永久に之に活力を與ふること、彼の個人的品性の完全なるを思へば我等は耶穌に於て人類の道德的靈的の主及び救主を見ることに於て異論なからん。

孤立 耶穌はその卓越したる偉大の代價として最も高き孤立の地に居れり。彼は最善の事を爲せしかど誤解を避くること能はざりき。其の兩親は彼を以て奇異なる小兒となし、人望の絶頂に登れる頃母と親戚とは彼は狂氣せりと思ひ之を捕へんとして來りたり。兄弟等も亦彼を實際的ならざる夢想家と思ひたり。國民の

首領も又普通人民も彼の靈的目的を了解せず、彼の弟子までも程度は異なるのみにて同様なりき。『最も良く彼を理解せし人も唯半面を理解せるのみ』。今に於て我等は然らざるを得ざりし所以を見るを得たり。多くの點に於て耶穌は少くとも二千年間時代に先じたりき。彼は彼が屢々語りたる靈的光榮の未來の時代に屬せり。彼が生れし世界を過ぎて後、彼は終に外國人なりしを感じたりしならん。終には、曩きに愛心を以て彼に従ひし人々に見棄てられ、次には己の弟子に見棄てられぬ。最も親しき同志の一人は曾て彼を識らずと答へ、彼が之を救はんとして來りたる國民の首領により公然斥けられ十字架につけられたり。この悲哀に類ふべき悲哀、之よりも苦き悲劇的悲哀の杯あるべきか。彼にして本性隱者にてあり、獨り歩むを好む嚴しく冷き性格の人ならんには、此の靈的孤立も或は堪へ易かりしならん。されど耶穌は人のうち最も友たり易き人にして、偉大なる感覺と鋭敏なる心情を有し、愛の日光のうちに生れたり。かゝる人に取りては最も深き

孤立は鋭き試練なりしなるべし。彼は人のうちに歩めり、群衆は彼に押し迫れり、彼は其の友に取り圍まれて旅行したり、然れども彼は孤獨なりき。彼の全性質が得んと欲して叫びし同情、一生の大目的を果す爲に必要なる同情より離されぬ。此の驚くべき品性の眞實の悲哀、小き世界に出でざる最高偉大の悲哀こゝにありき。我等は今此の人格の最内部の聖堂、耶穌示し得ず我等叩くとも入り得ざる含蓄と神秘の聖壇とに來れり。耶穌曰へり『父の外何人も我を知る者なし』(マタイ十 一〇二十七)。「又録せる名あり彼の外に之を識るものもなし」(黙示録十九〇 二)。此の隠れたる生活に於て耶穌は孤なりき、然れども神とともに孤獨なりき。彼の力の庫、全世界に注ぐ救ひの流れの發する源泉こゝにあり。人與り得ざる此の孤高なる品性は人をして近づく能はざらしめず、何となれば耶穌は我等を助け上げんが爲に我等の上にあればなり。我等が必要ある時には彼の御許に通れ得るは畢竟するに彼我等より強ければなり。

第九章 耶穌の究極性

光彩燦然たるバルセノンの宮に最後の工作が加へられ建築術は美の完全に到達せし日は人類に取りて大なる日にてありき。ラファエルがシヌチン宮の聖母マドンナを書き終り繪畫が最高潮痕に達せし日は大なる日にてありき。人間が初めて蒸汽機關や電信電燈電話を發明せし日は大なる日にてありき。

然れども他の日に優りて最も大なるは終に完全なる人の現れし日なりき。シセロは『Tusculan Disputationsツスクルム討論』と云へる書中に、古の思想家が、正しき人は如何の種類の人なるべきかを屢々論じたることを語れり。然るに今日何人もかかる事を論ずるものなし、人類の理想は耶穌に於て現れたればなり。世界の哲學宗教の驚くべき夢は遂にナザレの耶穌に於て現實となれり。すべて彼等の預言も思慕も想像も彼に於て成就せられて餘ありき。

之と匹敵すべき人物を描き出さんと欲する企ては總て望なき失敗に歸す。ニイチエの超人は人類の有する微妙なる感情には全く牴觸す。之を實現せんとする企ては文明を鮮血のうちに溺らしめんとせり。シイザア、ナポレオン、ロスチャイルド、ヴンダアビルトの光榮は消え失す。人類の大恩人ワシントン、リンコン、ゼンナア、バストオルの如き人さへ耶穌に似る事によりてのみ批判せられ名譽を與へらる。彼の弟子にてあらざりし人さへ彼に於て行爲の標準を見出せり。自ら基督者と稱せざるデヨン・スチュアート・ミルさへも曰く「耶穌を立てて理想的代表者となし人類の指導者となしたる事に於て宗教は誤れる選擇をなしたりと云ふを得ず。今日に於ても徳義の法則を抽象より具體に翻譯する方法として、我等の生活が基督の稱讃を受くるやうに活きんとする試みに勝るものを見出すことは不信者にしても容易ならざるべし」と。我等が通常思ふにまさりて此の感情は基督敎國の非基督敎的部分の心的設備の一要件となれり。耶穌にあらざれば、やゝ一

徳的に完全なる人、其の品性に於て必ずしも同一なるを得ず。二つの美しき日没が同じからざる如く蓋し各々相異ならん。耶穌の抱きし如く樂觀に浮かされて我等は一步を進め、將來靈の力によりて完全なる幾多の人物の生ぜらるゝ日なきや、特に神の聖意が天に成る如く地に成らん日には然かあり得ざるやを問ひ得るなり。

其の日ありとするも耶穌は依然として『多くの兄弟のうちに生れたる嫡子』(羅馬書八〇二十八)にてあり、開拓人にてあり、救ひの道を開きし人(ヘブル書二〇十)、我等に先ちて至聖處に入りし人(ヘブル書六〇二十)にてあるなり。完全なる人の種類多しと雖も、彼は常に其の標本典型にして、信仰の指導者完成者たるべし。彼れ第一に來りし故何人も彼より奪ふべからざる無二の地位を保有せり。アメリカ合衆國の歴史に於てワシントンの如く偉大に、賢く、且つ愛國心に富める幾多のアメリカ人は現るべけれども何人も此の國の父たるを得ず。かくの如く耶穌は基督教の起原、神の國の創立者たる故に奪ふべからざる卓越を有せり。

般化したる基督の精神が、實際全西洋諸國の道德的標準となり、空氣の如く又日光の如く世間の人は意識せずして且つ絶對的に之を承認し居れり。これまがひもなく基督教文明の礎石なり、『現代生活に於て最善なるものの朽ちざる根なり』。

此の理想を失ふと云ふことを考へ得べしとせば、此の理想を失ふ曉如何になるべきかを思へば此の事實の大なることを最も良く評價し得べけん。かくすれば靈的進歩の時計は二千年前に復することとなり、萬國民を道德上の混沌と不幸のうちに投ずることとならん。一朝崩れて復た挽回し難き世界的災害の感覺を遍く世に持ち來るならん。かくも深く且つ永久に人類を悲惨にすべきものあるを想像するを得ず。(ロマノフの『宗教に関する思想』第二十九頁を参照せよ。ロマノフは『神を棄てし時、己の性にて感じ得べき最も鋭き苦痛を感じ、宇宙は愛すべき心臓を失へり』と云へり)

されども我等は耶穌の究極性をただ道德的完全の上のみ置く能はず。出發點は常にここにあり又あらざるべからずと雖も我等は道德的に完全なる人にして其の住めるナザレの境以外に知られざることありと考ふることを得べし。總ての道

其の大きさに歸す。これ皆彼に取りて自然にして、彼はしか造られたり。賦與と云はんか授與と云はんか君の云ふを好む所に任かす。ペテロが「神は聖靈と力とを以て彼に膏^{あぶら}沃^{そそ}げり」と云ひし時全き物語を語るなり。

二千年はあらゆる人間の事實の最も意味深遠なるものを證明す。耶穌は歴史の全行程を一變せり。彼は新しき神の感覺、新しき型の人、新しき社會の秩序、生命と自由との新しき世界を作りたり。こは人の今まで知りし最も良き世界なるが耶穌は猶遙に善なるべきを要求す。耶穌は道德的心靈的の手段により、個人の靈魂に第一の注意を與ふることによりて之を成し得たり。彼は實際個人を利己心、肉慾、高慢、貪慾、憎惡より救ひ出して義にして無我なる愛の生活に入らしむ。人もし彼の訓誡に遵ふならば彼等自ら新になるのみならず、又自ら一種不思議なる道により人と世界とを愛の服従奉仕に進ましむる力の體現なりと思はれしむ。

且つ彼は宗教の爲すを求め得る一切の事を爲す。彼は人を神に歸らしむ。彼は

されども耶穌は此の以外、彼の究極的なるを保證すべき無二なるものを有す。是に於て我等は問題のあらゆる要素を商量しつゝ目を配りつゝ徐に進むべし。我等の想像に描きたる靜なる完全の徳を具へし人はおのづから他の人も亦此の祝福に入らんことを望み、彼等をこの中に導かんと勉むる救主の心を有するなるべし。されど其の努力は狭き範圍に限られたることを想像し得べし。耶穌は三十歳に達せしまではナザレ以外に活動せざりしとは注意すべき事なり。されど耶穌は一層廣き勤勞に召され、國民と全世界とに救ひを持來らすべく召されしを感じたり。曾て人の心に入りてしかも其の健全を失はしめざりし最大思想はこれなり。しかもこれ未だ重要な事にあらず、重大なるは、彼が自己のうちにこの大事業に當るに適せる資力を感じ、歴史も亦此の自己批評を是認せしことなり。道德的完全と救主の心に加ふるに廣き眼界を以てせしのみならず、實力、能力、威力を以てせり。總ての事は終に彼の人格の偉大、彼の靈魂の偉大なる力、人物の廣さ、深さ、否

然り耶穌は世界に於て成長す。彼を多く研究するに隨ひてより多くの印象を與へらる。相敵せる黨派と階級ひとしく彼を仰ぎて首領となし權威者となす。彼より抗言を受けたるものは我等の新世界に於て未來を有せず。社會の再生の原理彼に存し、彼のみ能く萬人を合し、自己に合せしむることによりて相合せしむることは明になり來る。世界にして若し救はれ得べくば彼は其の救主にてあらざるべからず。かくて彼は世界的意義を有し來る。彼は歴史的個人的の時期を脱して來るべき時代の理想となり、空氣となり、活動原理となり、基礎となる。來るべき時代は之に先てる如何なる時代よりも一層基督教的たるべし。世界は未だこれ以上に成長したるにあらず。今や僅に眞意を捉へつゝあり。彼は今猶ほ我等を導けり。驚くべき我等の世界の歴史に於て耶穌は最大の不思議なり。何人も彼の占めし地位を占むること能はず。將來出づべき救者は皆彼の卓越と究極性とを認むるならん。彼の力は盡きず、又實に増しつゝありと見ゆ。

道なり、眞なり、生命なり。然り彼は神を人に齎らすなり。彼の人格の魔力に服する人は彼の愛に服し、己の生命を耶穌の生命に結合し、彼の精神を得、彼の目的に與れり。彼とともに働く人は、耶穌に於て神を見出し、彼に於て父を見、彼の動かざる信念を得、至高者との交通に入る。

耶穌は世界に於て成長す。パリサイ人、哲學者、諷刺家、無神論者、批評家、心理學者孰れも耶穌に手向ひし日ありき。されど新しき攻撃の加はる度毎に耶穌はますます偉大に、ますます有力となるなり。彼に關する我等の舊き觀念は消失するとも、彼の品性と意義とに關して更に大なる、更に正しき、更に深き見解來りて之に代るに過ぎず。ブラウニングの云ひし如く、

此の一の面影消ゆるにあらで成長す、

溶くると見れば復た結び、

感じ又知る我が宇宙とはなるなり。

人は恒に此の人格の秘密を問ひ又問ひつゝあり。この秘密の盡く啓示せらるゝことなからん。パウロの説明によれば神基督に在りて世を己と和がしめ、神の榮光を知るの光、耶穌の顔より我等に輝けり。教會は其主その救主を愛する熱心の爲に、一層良く之を語り一層狭く之に定義を與へんと試みたり。此の事業成功せしや否議論の存する所なれども全く明白なる一事はこれなり。かくも不思議に又雙びなく神に満たされたる耶穌は我等の最高思想の達せざる範圍に於て主なり。故に彼はあらゆる人類の驚きと宗教と愛と最高の忠義とを要求し又之に値す。

附 録

耶穌一生の概要

第一 傳道前の生活

紀元前五年若くは六年—紀元二六年

重 要 事 件

- 1 ベツレヘムに於ける誕生
- 2 ナザレに於ける靜なる年月

第二 傳道に先だてる事件

紀元二六年秋—二七年踰越節(四月十一日)

重 要 事 件

- 1 パプテスマのヨハネの傳道

第三 ユダヤ初期の傳道

紀元二七年踰越節(四月十一日)―十二月廿七日

重要事件

- 1 第一回神殿廓清
- 2 ニコデモとの面會
- 3 ヨハネと協力してユダヤ傳道に従事す

第四 ガリラヤ傳道

二七年十二月二十七日―二九年踰越節(四月十八日)

重要事件 (綱目)

- 1 耶穌各地を歩いて神の國の福音を宣べ且奇蹟を行ひて多くの群集を引着す
- 2 耶穌弟子を招き之を教へ之を組織す
- 3 學者とパリサイ人次第に耶穌に敵對す
- 4 カペナウムに於ける危機

第五 北方隱退

二九年踰越節(四月十八日)―同年十一月二十九日

重要事件

- 1 弟子の教育、ペテロの告白と耶穌の死の預言とに終る

第六 ペリア傳道

二九年十一月より三〇年四月二日(日曜日)

ペリア傳道はガリラヤ傳道に似たる所多し、たゞ總ての事一層簡單に鋭く、且つ嚴肅なり。重要事件の表を作るには資料不十分なり。其の終りに耶穌エリコを経てペリアよりエルサレムに行けりと云ふのみにて足れり。

第七 受難週

三〇年四月二日—四月九日

重要事件

- 1 凱旋的入京
- 2 第二回神殿の廓清

- 3 ユダヤ人の首領と衝突
- 4 最後の晚餐
- 5 ゲツセマネとユダの反逆
- 6 ユダヤ人の審問
- 7 ロマ人の審問
- 8 十字架及び埋葬

第八 四十日間

三〇年四月九日—五月十八日

重要事件

- 1 復活の晨
- 2 四十日間の顯現
- 3 昇天

(註) 此の年表は耶穌傳道の期間三年なりとの假定に原きて編成せり。たゞ余は全くとは云ひ難きも殆ど二年とする説を受くるに傾けり。斯く改めたりとて事件の順序又其の重要は少しも變ずる所あらず。ヨハネ傳も大體之を認容したり。又この年表はスチイヴンスとポルトンの『四福音書^{ヘブライ}和合』に負ふ所多けれども、自由に之を取捨したり。

大正五年六月二十六日印刷
大正五年六月二十九日發行

定價金壹圓

不許複製

發行所
發賣所

譯者 柏井園
東京市京橋區明石町八番地
基督教興文協會代表者

發行者 エス、エチ、ウエンライト
橫濱市太田町五丁目八十七番地

印刷者 村岡平吉
東京市京橋區銀座四丁目一番地

印刷所 福音印刷會社東京支店
日本基督教興文協會
東京市八重洲區
警禮社・教文館・丸善書店・福音書店
基督教書類會社・岩波書店

基 督 研 究 の 好 資 料

栗原 フォスチック著
基譯 **耶穌の人格**
定價六十錢
郵稅四錢

宮崎 小八郎著
譯 **歴史的耶穌**
定價三十錢
郵稅四錢

千磐 武雄著
譯 **基督の事實**
定價並上六十三錢
郵稅六錢

津金 ジェ・アール・ミラー著
譯 **日々の基督**
定價壹圓卅錢
郵稅八錢

櫻井 成明編
譯 **耶穌一代記**
(少年爲)
定價並上壹十六錢
郵稅八錢

325
422

終